

花王(株)へのヒアリング結果のレポート

■実施の概要

- ・日時 2017年11月10日(金) 13:00~14:00
- ・場所 花王会議室
- ・出席者 花王: サステナビリティ推進部長 柳田康一氏
サステナビリティ推進部サステナビリティ推進グループ部長 畑中晴雄氏
RC推進グループ部長 奥野隆史氏
3R全国ネット: 中井、山本、小野寺、栗岡、小寺、伊藤

■ヒアリング結果の詳細

参考資料: 「花王サステナビリティ・データブック 2017」(HPに掲載)

<容器包装の3Rの取り組み>

- 2016年1月から、シャンプー・コンディショナーのつめかえ用として、従来のつめかえパウチと同じ容量だが、それよりもスリムでコンパクトで使いやすい「つめかえ用ラクラク eco パック」の販売を始めました。ボトルのような形状で、注ぎ口にキャップがついていて、こぼさず、すばやく、残さずつめかえができ、空になったら折りたためます。フィルムの厚みを従来よりも約18%薄くしました。
- 花王では、つめかえ・つけかえ用製品は2016年12月時点で266品目にのぼり、つめかえ用製品の販売数量比率は80%強(本数ベース)になっています。つめかえ・つけかえ用製品を販売することによって、2016年に8万t強のプラスチック使用量を削減したことになります。ちなみに、2016年のプラスチック(ほとんどがポリエチレン)の使用量は5.8万tです。
- 容器包装の2Rへ取り組んでいる動機は、できるだけごみを発生させないという責任感とコストダウンです。
- 使用する段ボールは、厚さを5mmから4mmに段階的に切り替えました。
- 以前、プラスチックの使用量を削減するため、柔軟仕上げ剤の「ハミング」を紙パックに入れてテスト販売したことがありますが、消費者に受け入れられませんでした。
- 2017年10月にスタートした、使用済みつめかえパックを回収し、さまざまなものを創造するブロックに再生する「鎌倉リサイクリエーション・プロジェクト」に花王が協賛をしています。NPOが進めているもので、鎌倉市役所に回収ボックスを設置して回収を行っています。

<環境保全対策>

- 花王グループが日本で販売している洗顔剤、全身洗浄剤、歯磨きに配合しているスクラブ剤は、花王が開発した天然由来のセルロース、コーンスターチを使用しています。ただし、ごく一部の洗い流す化粧品や海外で販売している全身洗浄剤には、マイクロビーズを使用していましたが、2016年末まで

にすべて代替素材に置き換えました。海ごみの削減にはぜひ関わっていきたくて考えています。多国籍企業がマイクロビーズの使用中止に動き出した影響力は大きく、日本化粧品工業連合会も、2016年3月に加盟企業に向けマイクロビーズの使用中止を呼びかける文書を発信しています。

- 花王では、「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドラインを定めており、花王製品の紙包装材料の原料となるバージンパルプについては、原料木材の産出地の森林破壊がゼロで、原料木材産出地の追跡が可能なものに限定しています。そのため、森林認証（FSC、PEFCなど）を受けていることを確認するとともに、原産地のトレーサビリティを確認しています。ほぼ100%達成しています。
- 日本石鹼洗剤工業会では、洗剤類の環境への影響を調べるため、1998年から、原料の界面活性剤4種類について、多摩川、荒川、江戸川、淀川で、年に4回環境モニタリング（河川水中濃度調査）を実施しています。その結果は、水生生物への影響が表れないとされる予測無影響濃度（PNEC）の数値を大きく下回っています。

<拡大生産者責任（EPR）>

- 当方から「現行の容り法では、容器包装の収集費用は自治体が負担し、生産者はリサイクル費用全体の約14%に過ぎない再商品化費用のみを負担する仕組みになっているため、生産者に対してリサイクル費用低減のインセンティブが働かず、容器包装の無駄がなかなか減らない。したがって、容り法を、生産者が収集費用も負担する仕組みに変える必要がある」という考え方を提示し、これについての意見を伺ったところ、そういう見方もできると思うが、花王の場合は、現行法のもとでも再商品化委託料の負担が大きく、十分コストダウンのインセンティブになっているとのことでした。

※補注 2015年度の花王の再商品化委託料は12.6億円で断然トップ。2位は明治の5.8億円。

- 2016年にOECDが作成したEPRのアップデート・ガイダンスは、筋が通った考え方ですが、生産者の責任についての線引きが必要ではないかと思えます。

<その他>

- SDGs（持続可能な開発目標）については、サステナビリティへの取り組みを通じて6つの目標の達成に寄与していきたいと考えています。花王も加盟している日本化学工業協会では、SDGsに向けてのビジョンを策定し、それに基づき、これまで培ってきた公害技術のアジアへの普及と、保温材などの新素材の開発に取り組むことになりました。

- サーキュラー・エコノミー（循環型経済）には大いに注目しています。世界の約400社が加盟し、花王も加盟している国際的な業界団体「コンシューマー・グッズ・フォーラム（CGF）」で、それについての議論が始まっており、花王も積極的に参加していく準備をしているところです。

（文責：事務局小野寺勲）